

12月15日(月)

滅びる寸前

今日の力

2025年12月15日～12月21日

翻訳 ダニエル ハドルストン

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

聖書朗読 ヨシュア記 2:17～22

結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとてすべてである。

伝道者の書 12:13

イスラエルの軍隊が、彼らを妨げようとする敵をみな滅ぼして迫って来ます。彼らの神は、上は天、下は地において力ある神です。もしあなたが、次に破壊しようと目星をつけられた町の城壁の中に住んでいたら、一体どうしますか。

それが、ヨシュアが遣わしたふたりの男がラハブの家のドアをノックした時の彼女の状況でした。彼らが侵攻してくる恐ろしい軍隊の斥候であることに気づいた瞬間、彼女はどれほど怖い思いをし混乱したでしょう。それでも、ラハブは勇敢な決断をしました。スペイたちをエリコの王から守ろうと自分の命を危険にさらし、彼らが親族全員を救い出すという約束を守るだろうと信用しました。

最も大事なのは、彼女はイスラエルの神の力を信じました。

伝道者の書12:13のソロモン王の言葉を言い換えると、「あらゆる物事には意味がない。神を恐れ、神の命令を守ること以外は」となります。ヨシュア記によると、ラハブは遊女だったらしいです。でも、ヘブル 11:31では、彼女の行動をもたらした信仰が褒められています。彼女は以前の生き方を止めました。エリコの町が陥落した後、彼女は神様に忠実に従い、イエス・キリストの家系に含まれたのです。（マタイ 1:5）

ラハブは最も大事なふたつの特性を示しました。即ち、神様を敬うことと、神様のみここに従うことです。これらによって彼女の命が救われ、私たちの命も救われるのです。

讃美歌 271 いさおなき我を

祈り 神様、あなたはなんと偉大なお方でしょう。私たちはとんでもなく弱いです。あなたは私たちが台無しにした人生から私たちを引き上げてくださいます。あなたの道はこの世で唯一の意義あるものです。あなたのものになりたいです。イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。

オクラホマ州 タレクア／コニー・エドワーズ

12月16日(火)

悪魔の道具

聖書朗読 列王記 第一 19:10~18

彼らはホル山から、エドムの地を迂回して、葦の海の道に旅立った。しかし、民は、途中でがまんができなくなり、
民数記 21:4

悪魔が廃業して道具を売りさばいていると私たち読者に想像させようとする、よく聞かれるお話があります。道具の中にはねたみ、憎悪、高慢、詐欺、好色、悪意、偶像崇拜があります。でも、その横に、使い古しだけれども、最も高い値札を付けられている、特別な道具が見えます。それは、落胆です。

このお話では、落胆がなぜそんなに高いのかと聞かれた悪魔は、他の全ての道具より役立つものだからと答えます。落胆を使って人間の心に入り込み、一旦入ってしまえば、その人を意のままに操れます。落胆が使い古された道具であるのは、誰に対しても使えるからで、それが悪魔の道具であると気付いている人間も数少ないのです。

エリヤは、神様に忠実な者は自分一人しか残っていないと思うほど落胆しました。その落胆を乗り越えさせるために、神様はエリヤが一人ではないことを思い出させました。それから彼に課題を与えられました。落胆を乗り越えるための最も有効な方法の一つは他の人に仕えることです。それによって、何を優先したらよいか、私たちの焦点を合わせ直すことができます。

エリヤの場合には有効でした。あなたにも効くでしょう。

聖歌 578 主の愛のながうちに

祈り 天のお父様、落胆するとき、私の思考をあなたの方に向かわせ、決して一人ではないことを思い出させてください。他の人に対して祝福になれるよう、私をあなたに仕えることで忙しくさせてください。イエス様の御名によって。アーメン。

テキサス州 サイプレス / デール・フォスター



12月17日(水)

難しい状況

聖書朗読 ヨブ記 42:1~6

私のたましいが私のうちに衰え果てたとき、私は主を思い出しました。私の祈りはあなたに、あなたの聖なる宮に届きました。
ヨナ 2:7

独房にいても希望を見つけた囚人の話を読みました。隔離されて独りぼっちだった彼は、隙間に隠されていた古いチェスの入門書を見つけました。独房の毛布の紐でチェスの駒を作り、遊び方を覚えました。釈放される頃には、チェスが上手くなり、後には大会にまで出ました。暗い状況には意外な希望的な結末でした。

ヨブの境遇は全くひどいものでした。耐えられない損失を被りました。家族からも友達からも何の慰めも得られませんでした。神様に叫びましたが、はっきりとした答えを得られませんでした。それでも、その苦しみの泥沼のどこかで、ヨブの心が変わりました。彼の態度は、答えを要求する態度から信頼してゆだねる態度へ、自己憐憫を吐き出す態度から、悔い改め神様を敬う態度へと変わりました。

神様にすべてを委ねたとき、ヨブは苦しみ・混乱・疑いから解放されました。神様に信頼する以外の道はありませんでした。

私たちがヨブの心の変容について考えるとき、ヨブと同じことを言えますように。『あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました…まことに、私は自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。』(ヨブ 42:2~3)

讃美歌 519 わがきみイエスよ

祈り 我らの偉大なる永遠の神様、あなたは全てをご覧になり、全てをご存じで、万能で、どこにでもいらっしゃる神であられることをありがとうございます。全ての状況にあって、あなたに完全に信頼できますように。イエス様の御名により。アーメン。

カリフォルニア州 エスコンディド / ジャニス・クレマー

12月18日(木)

終わりよければ全てよし

聖書朗読 ヨブ記 42:7~17

そのために、私はこのような苦しみに会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。

テモテII 1:12

あらゆる苦しみのときに、私たちは答えが欲しいものです。窮地の最中（というより、正確には泥沼の中）にあって、“なぜだ”と尋ねるかも知れません。私たちには、嵐の先、痛みの向こう側に何があるのかが見えません。

ホメロス*の叙事詩『オデュッセイア』で主人公オデュッセウスはこう言います。「物事の最中にあって終わりを見ることを期待せず、始まりがあり、中間があるように、終わりもちゃんとあることを信じよう」（*編注：紀元前8世紀末の古代ギリシャの詩人。『オデュッセイア』の作者と考えられている。）

初期のクリスチヤンの殉教者たちもそう信じました。同胞の信者たちは殉教者たちの遺体を埋葬する時、希望の讃美歌を歌いました。彼らは“終わり良ければすべて良し”と確信していました。

ヨブも結局、その結論に到達しました。苦しみは大きかったものの、彼の神様に対する信頼はそれに耐えました。彼は元どおりにされ、想像を絶するほどに恵まれました。

C.S.ルイスはこう書きました。「私たちが後に残すものより、はるかに素晴らしいものがこれから先にある。」私たちはなぜ苦難に会うのか分からぬかもしれません。でも、私たちは、苦難の中で私たちと一緒に歩み、結末を御手のうちに持ついらっしゃるお方を信ずることが出来ます。

聖歌 450 なにゆえみ神は

祈り お父様。ヨブの人生を通して、信仰が喜びにあふれる結末に繋がることを、私たちに思い出させてくださってありがとうございます。主イエス様を通して。アーメン。

ネブラスカ州 ヨーク / ロバートW・ローレンス

12月19日(金)

神様、何故ですか

聖書朗読 詩篇13篇

主よ。いつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。
詩篇 13:1

昨年、親愛する友達を亡くしました。彼女は若くて活動的で信仰深い人でした。他の人の誕生日を覚えていたり、本当に心配してくれていることがわかるような質問をしたりする人でした。彼女は癒しを祈りました。私たちも祈りました。でも、静かに苦しく、彼女の体は衰えていきました。そして彼女は逝ってしまいました。正直を言うと、私は神様に「なぜ」と聞きました。なぜ彼女が、なぜ今、なぜ違う結末を与えてくださらなかったのかと。

悲しみを整理するのに説明してほしいと感じることがよくあります。でも、聖書は、私たちが感情を正直に表現することを許可しています。ダビデが『主よ、いつまでですか。』と言った時、神様はお叱りになりませんでした。イエス様ご自身、ラザロの墓の前で涙を流されました。すぐ後にラザロは復活することになっていたのです。涙は信仰の無さのしではなく、人生の旅路の一部です。

「神様、なぜですか」という疑問に対する簡単な答えはありません。でも、私たちだけがそう聞くわけではないことを聖書は思い出させます。さらに重要なことは、私たちが尋ねるとき、神様は私たちから顔を背けません。『主は心の打ち碎かれた者の近くにおられ』ます。（詩 34:18）神様が沈黙されていたとしても、そこに神様はともにおられるのです。

自分が求めている答えを得られないかも知れませんが、神様が共にいてくださると約束されています。そして、それがより大きな慰めであることがあります。私たちの痛む心が、悲しみの理由の答えを理解できなくても、一人ではないことを知り、平安を与えられます。そして、もっと深い慰めが与えられるのです。

讃美歌 39 日くれて四方はくらく

祈り お父様、きちんとした答えのない疑問があります。でも、あなたのいつくしみは変わりません。暗闇にあっても、あなたに信頼できますように。イエス様によって。

コロラド州 デンバー / アンナ・ポーター

12月20日（土）

だれをわたしは恐れよう

聖書朗読 詩篇 27:1~3

主は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。主は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。

詩 27:1

ここでダビデが聞いているのは質問ではありません。自信の宣言です。怖がっているだろうかと思っているわけではなく、怖くないと宣言しているのです。敵に囲まれ、命の脅威に直面しても、ダビデは引き下がりません。彼は恐怖に真っ向から立ち向かい、こう言います。「私の神の方が偉大だ。」

恐怖は色々な形で出現します。壊れた人間関係、金銭的損失、孤独、将来に対する不安等々。でも、誰が私たちと一緒に歩いているのかを思い出せば、恐怖を与える悪魔の手から解放されます。ダビデが勇敢で怖い者知らずだったのは、彼の人生が平穀無事だったわけではなく、神様を知っていたからです。『たとい、私に向かって陣営が張られても、私の心は恐れない。たとい、戦いが私に向かって起こっても、それにも、私は動じない。』

（3節）

恐怖が嘘を囁けば、私たちは眞実を持って応えます。礼拝や聖書は私たちの武器となります。賛美の歌は不安な思いを消すことが出来ます。震える心は暗唱聖句によって鎮められます。私たちは自分の力で恐怖と戦いません。神様の約束を持って戦います。

讃美歌 267 神はわがやぐら

祈り 主よ、恐怖がつのるとき、あなたが私の光、私の救い、私のとりでであることを思い出させてください。あなたのみことばや礼拝を、恐怖を鎮める武器として用いることができるよう教えてください。あなたが私と一緒にいてくださるので、私は怖がりません。イエス様の御名によってお祈り申し上げます。アーメン。

ジョージア州 アトランタ／ジェシカ・ブリッジポート

12月21日（日）

みなしごの父

聖書朗読 詩篇 68:5

みなしごの父、やもめのさばき人は聖なる住まいにおられる神。 詩 68:5

私がまだ幼い頃に父は亡くなりました。父が写っている写真5枚といくつかの遺品しか持っていない。母にとっては、父の写真を飾ったり、遺品を家に残すことはとても辛いことでした。実際、母は一部は家と違うところに保管しました。

何年も経って、父の姉妹の一人が、父からもらった金のブローチを私にくれました。私は大喜びで貰いました。とても綺麗でした！ 父さんが買ったものだと知っているから、それは私にとって大変大事なものでした。右の肩について、「今日、父さんは私と一緒にいるわ」と言いました。そして、気が付きました。私のお父様、天のお父様は、毎日、私と一緒にいらっしゃいます。

私にはもう父も母もいなくとも、天のお父様はいつも一緒にいてくださることを知っています。

私たちが神を父だと思うと、神のみこころが分かり始める

— A. W. トウザー*

(*編注：アメリカ合衆国の牧師、作家、雑誌編集者。1897-1963)

讃美歌 86 み神のめぐみは

祈り お父様、あなたをお父様と呼ばせて下さいましてありがとうございます。毎日一緒にいて、いつも偉大なる「私はある」であり、私たちのお父様である、あなたにお仕えできるように助けてください。御名がほめたたえられますように！ 神様、あなたを愛しています。イエス様の御名によって。アーメン。



テネシー州 コルドバ／ジュディ・キルマー